

バッハ盤を聴く(12)(HP 収載)
—最新アナログシステムでの試聴(12)—

1. 始めに

前報(11)に引き続き、バッハのアナログ盤を聴き直していきます。

2. バッハのアナログ盤の試聴方法

試聴システムは LINN LP-12 の再構成(35)および ThorensTD124 の再構成(1)で報告したとおりであり、今回は LINN LP-12 で聴いていきます。その後、さらにアンチスタティックの効果(1)とアンチスタティックの効果(2)で報告したようにレコードアンチスタティックも加わり、今回も、スピーカーアキュライザーの出力側のマイナス端子に Crstal EpY-G をセットしています。

今回は、次のレーベルを聴いてみます。

PHILIPS 25PC35-39

J.S.バッハ ヴァイオリンとハープシコードのためのソナタ

第1番 BWV1014 第2番 BWV1015 第2番 BWV1016

第4番 BWV1017 第5番 BWV1018 第6番 BWV1019

アルトゥール・グリュミオー (ヴァイオリン)

クリスティアーナ・ジャコッティ (ハープシコード)

PHILIPS PC1571~72

J.S.バッハ 無伴奏チェロ組曲全曲

モーリス・ジャンドロ (チェロ)

PHILIPS SFX-7580

J.S.バッハ 組曲第3番アリア

組曲第2番ポロネーズ・パディネリ

ジャン・ピエール・ランパル (フルート)

3. バッハのアナログ盤の試聴結果

PHILIPS 国内盤は、ZANDEN のリストでは、RIAA、N、第4時定数 Mid となっています。

ヴァイオリンとハープシコードのためのソナタは、RIAA、N、第4時定数 Mid で聴いていきましたが、違和感はなく、グリュミオーのヴァイオリンは、ふくよかで重音までの確に表現され、ジャコッティのハープシコードは、控えめでありながら、繊細な音でヴァイオリンと調和しています。

無伴奏チェロ組曲は、RIAA、N、第4時定数Midで聴いていきましたが、違和感はなく、ふくよかなチェロの音色で胴鳴りも豊かで、しみじみと聴かせるバッハです。組曲第3番アリアと組曲第2番ポロネーズとパディネリは、RIAA、N、第4時定数Midで聴いていきましたが、違和感はなく、いずれの曲もランパルの華やかで技巧的な演奏が、豊かな響きで楽しめます。

4. まとめ

LINN LP-12の再構成(35)とアンチスタティックの効果(1)の結果をトレースでき、レーベルのイコライザー特性が特定できました。

以上